



アジア・アフリカ会議

熊倉晴子

1955年4月18日から24日にかけて、インドネシア、ジャワ島西部の都市、バンドゥンにて行われた政府レベルの会議。バンドゥン会議、AA会議などとも呼ばれる。前年の1954年にスリランカで行われたコロンボ会議に出席した、セイロン（スリランカ）、インド、パキスタン、インドネシア、ビルマ（ミャンマー）の5カ国（コロンボ・グループ）による共同主催で、日本、中国などアジア15カ国、中東8カ国、アフリカ6カ国、計29カ国が正式参加した。反植民地主義や平和共存を掲げた平和十原則(バンドン原則)が採択され、アジア、アフリカ諸国が連携し、反帝国主義・反植民地主義を公に表明したという点において極めて重要な会議であると言える。また、1961年に設立された非同盟運動の始まりとされている。日本から参加した加瀬俊一外務相参与（当時）は、1994年7月に京都外国語大学で行った講演にて、現地では日本の参加を大変喜ばれ、歓迎された旨を述べたが、これらの発言には多角的な視点からの検証が必要であると思われる。また、2005年に行われた50周年式典での小泉純一郎総理大臣（当時）および、2015年の60周年記念式典での安倍晋三総理大臣（当時）のスピーチ内容の変遷からは、日本の歴史認識についての表現における軌道修正が見られることにも注目したい。

関連リンク

- 外務省ウェブサイト、小泉内閣総理大臣のアジア・アフリカ首脳会議等出席について https://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_koi/asia_africa_05/gh.html
- 外務省ウェブサイト、安倍総理大臣のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）60周年記念首脳会議出席 https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/rp/page3_001183.html
- アジア・アフリカ会議博物館ウェブサイト <http://asianafrikanmuseum.org/en/museum-kaa/>